

「朗読決勝課題」

その電話の声は、驚くほど鮮やかに耳に残っている。

鈴木は、マツダスタジアムの一階にあるカープの球団事務所にいた。新井がタイガースを自由契約になって二十二日後、二〇一四年十二月二十六日のことだ。

時間まで覚えている。午前十時十一分だった。

ニューヨーク・ヤンキースの黒田は国際電話で、確かにこう言ったのだ。

「僕は帰ります！」

鈴木は、えっ、と反射的に応えた。

「ドジャースか？　パドレスか？」

帰る、と言う言葉を聞いて、家族の住む米国西海岸のチームに戻るのか、と一瞬思ったのだ。西海岸には、黒田がかつて所属したロサンゼルス・ドジャースがあり、その南にはサンディエゴ・パドレスがある。

「カープですよ」